

報告

世界防災会議が開催されました

東日本大震災を含む、過去の災害対応における経験から、男女共同参画の視点から防災・減災に取り組む必要性が明らかになっています。平成27年3月に仙台市にて世界防災会議が開催されました。この会議は国際的な防災戦略を策定する国連主催の会議で、国連加盟国(193か国)、国際機関、NGOなどが参加し、今後の世界の防災戦略を策定するものです。

会議に参加された瀬山紀子さん(埼玉県男女共同参画推進センター事業コーディネータ)にご報告いただきます。

瀬山 紀子

埼玉県男女共同参画推進センター事業コーディネータ。埼玉県男女共同参画推進センターの事業全般に関わる他、主に障がい女性に関する複合差別的課題をテーマに研究を続けている。世界防災会議では、サイドイベントの一つである「女性と防災」テーマ館でのシンポジウムにパネリストとして参加。



世界防災会議「女性と防災」に参加して

東日本大震災から4年目となった3月14日から18日の5日間、仙台市で開かれた第3回国連世界防災会議に参加する機会を得ました。会議には世界187か国から関係者が集い、サイドイベントを含めると参加者は4万人を超えたそうです。ここでは、その防災会議のなかで、仙台市男女共同参画推進センターを拠点とする「女性と防災」テーマ館でのイベントを中心に、その場の熱気や、そこで話されたことをお伝えします。



●「女性と防災」テーマ館

今回の会議では、国連の会議とは別に350を超える市民に開かれたシンポジウムや企画展示が行われ、「市民協働と防災」と「女性と防災」という二つのテーマ館がつけられました。会議のなかで、「女性と防災」に特化した拠点がつくられたのは初めてのことでそうです。テーマ館では、日替わりでシンポジウムや展示、トークイベントが開かれ、連日たくさんの方が集まっていました。イベントでは、東日本大震災であらためて認識された災害と女性、男女共同参画と防災というテーマを中心に、避難所での困難や復興過程への参画等、この間の経験のなかで積み重ねられた気づきからの貴重な提言や、国際社会を含めたこれまでの様々な取組みについての意見交換が重ねられました。

●男女共同参画・レジリエンス(回復力)

シンポジウムのなかで共通して話されたことの一つは、地域のレジリエンスを高めることの必要性、そのためには女性や社会的に不利な立場におかれやすい人たちが、日常的に地域のなかの意思決定過程に参画していくことが重要だということです。レジリエンスとは、回復力を意味し、防災や減災と置き換えられることもあります。シンポジウムでは、災害による社会的損害をいかに少なくし、地域のレジリエンスを高めるかということと同時に、災害時や災害後の影響は、困難な状況にある人により大きな影響をもたらすため、社会のなかに存在している格差を解消する日常的な取組みが重要であることが繰り返し話されていました。

●人育てによる地域への波及が大きなテーマに

もう一つ、共通に話されていたのが、災害が起こる前から、地域のなかで女性の人権や男女共同参画の視点をもった人を増やしていくことが必要だということ。また、災害時に、そうした視点をもって動ける人をいかに増やしていけるかという人育てに関するテーマでした。シンポジウムでは、女性防災リーダー養成講座などの実践の報告や、そうした研修を経た人たちのネットワーク化の取組みについても報告され、そうした取組みから生まれたワークショップ教材などの具体的な有益な情報も交換されました。

防災・減災の取組み、また災害時の避難所運営のなかに、あたり前に女性の人権や男女共同参画の視点をいれること、またそうした視点を定着させていくために、男女共同参画センターは、地域防災組織や災害ボランティアをはじめとした、これまでとは異なる多様なセクターと手を組んでいく必要があります。また、会議では、災害時に全国のセンター同士が協力関係を組んでいく可能性についても話されました。

●最終的な決議文「仙台防災枠組」

国連の本体会議では、この先15年間を見通した「仙台防災枠組」が成果文書としてまとめられました。文書では、女性と若者のリーダシップの促進や、女性や子ども、若者、障がい者を防災の担い手に位置づけることが明確に示されました。男女共同参画センターは、今後、子どもや若者、障がい者など、多様な主体と連携し、男女共同参画の視点からの防災の取組みを進める拠点になりうるでしょう。

過去の災害からどんなことを学び、次につなげていけるのか。多様な主体が参画できる地域をどう育てていくのか。それを考えていくためのたくさんの課題と、被災地からの新しい大切な希望を感じることができた貴重な会議でした。

★シリーズ
★できるってかっこいい!男性のための楽しむ家事・育児

料理はモテる男のたしなみ!!

セミナー「簡単な家庭料理でワーク&ヘルスバランス!」
～作って楽しい食べておいしい男の料理～ 報告

報告：なにわ男の料理倶楽部 竹下輝明

このたび、2007年3月に結成した「なにわ男の料理倶楽部」は、結成8年目にしてクレオ大阪中央との共催によるコラボ型男女共同参画セミナー(※)を実施いたしました。

コラボ型セミナーの募集も締切直前に知り、正直よもや選考されるとは思ってもみませんでした。メニューや受け入れ体制もどうするか全く未経験の我々は、途方にくれながらもご指導いただいている先生方のアドバイスやイベントの前後で何回も打ち合わせや飲みニケーションを行って、メンバーの意思の疎通を図り、チーム一丸となって、全3回のセミナーを満員御礼、好評のうちに終了することができました。ご協力いただきました皆様に心から感謝とお礼を申し上げます。

なにわ男の料理倶楽部が8年も続いているのは、「イチョウ切りはどうするんだっただかな?」「火加減が強いヨー」など、ワイワイ言いながら実習を行い、苦勞して作った後の試食も、「おいしく出来てるぞ!」「少し味薄かったかな?」などと話題はつきず、話しながらの食事は楽しくて日頃のストレスを発散し、みんなの笑顔や気分転換で明日へのエネルギーが湧いてくるからです。



あ お医者さんが、料理には人生に大切な「か・き・く・け・こ」をすべて含んでいると言われました。か:感謝・感動の気持ちで、き:興味を持って、く:工夫し、け:健康を意識し、こ:恋(愛)する家族の健康を考えたメニュー。料理は、命をつなぐ最も重要なことであるとともに人生に必要な考え方が身につく手段でもあるのです。

グループ節目の10年に向かうこの時期、今回の経験で大きな刺激と励みをいただきました。これからも料理を通じてモテる熟男をめざし、地域に貢献できる倶楽部になりたいと思います。

※コラボ型男女共同参画セミナーについては裏表紙をご覧ください。

セミナーで
作った
レシピの
紹介

肉じゃが



<作り方>

- ①牛肉は4cm長さに切り分ける。
・じゃがいもは皮をむいて乱切りにする。
・玉ねぎ半量は薄切り、残りの半量は2cm幅のくし型に切る。
・まいたけは根の部分を取り取り、ほぐしておく。
・さだ豆は筋を取り除き、塩茹でして斜め3等分に切り分けておく。
- ②鍋にAを入れ一煮立ちさせた中に牛肉と玉ねぎの薄切りの方を入れ、出てきた「アク」を取り除きアルミホイルで作った落し蓋をして、弱火で20分程度煮て、煮汁に牛肉と玉ねぎの旨味をしみ込ませる。
- ③②にBとじゃがいも・玉ねぎのくし型の方を加え、上にまいたけを入れて再び落し蓋をして中火で15分間煮る。
- ④じゃがいもに竹串を刺してみてもスーと通れば弱火にして水分を軽く飛ばす。
- ⑤その後、玉じゃくしで全体を混ぜ、全体がとろ~としてくるまで出来上がり。
- ⑥深鉢に盛り付け、さだ豆を上飾る。

<材料 2人分>

牛薄切り肉	120g
じゃがいも(男爵)	200g
玉ねぎ	160g
まいたけ	120g
さだ豆	2本(6g)
A { 水	300ml
酒・醤油	各大さじ2
B 砂糖・みりん	各大さじ1強